

## 協力隊の活動事例



### 地域丸ごと宿やエコツアーの仕組みを活用した農泊推進

岐阜県山口市では、美しい川や山などの豊かな自然環境を活用した観光推進と地域産業の活性化を目指し、地域おこし協力隊を採用しています。採用された隊員は、既存の地域産業に新たな価値づけをしてさまざまなプロジェクトに従事してきました。

現在、山口市は、農泊事業に力を入れており、令和5年度からNPO法人山県楽しいプロジェクトを中心とした山口市農泊推進協議会が発足しました。同協議会では農泊モニターツアーやPRイベント、食の商品開発などを行っており、各地域おこし協力隊員には、宿泊、ツアーガイドの面で協議会の取組との連携を期待しています。



岐阜県山口市 地域おこし協力隊 河合 祐樹さん(活動期間:令和2年度~)

衰退の一途を辿る山口市北部の北山地区を、文化維持・産業振興・自然保全の面で持続可能なエリアにするべく、地域おこし協力隊に応募しました。北山地区を地域丸ごと一つのホテルと仮想し(ヒトイキ村)、地区に散在する宿泊、食、体験、観光、特産物をつなげ、一元的に魅力を発信・提供していく仕組みを整備しています。

空き古民家を活用したゲストハウスやコワーキングスペースを整え、そこを拠点に「源流の水・めぐる物語」というテーマのもと、間伐放置材を活用したサウナ、ネイチャーガイド、ウェルネスツアーなどの体験ツアーを開発しています。山口市農泊推進協議会のツアー造成にも、アドバイザーとして参画しています。



### 林業の現状に寄り添った森林空間の活用と観光資源の発掘

岐阜県八百津町では、定住・定着の担い手となる人材の確保と当町の魅力を別の視点から発見するため、平成27年度から地域おこし協力隊を採用しています。

採用された隊員は、地域資源や特産品の掘り起こし及び販売促進に関する活動、地産地消の推進に関する活動、空き家の有効活用・都市住民の移住・定住及び交流事業・農業・林業及び観光の振興に関する活動、里山地域のまちづくり支援・廃校となった校舎の活用と企画運営・町の行事及び地域行事への支援、その他地域力の維持・強化に資する活動に取り組んでいます。



岐阜県八百津町 元地域おこし協力隊 武藤 貴子さん

(活動期間:平成27年度~平成30年度)

平成27年11月より八百津の地域おこし協力隊として3年間の活動を経て、その後は八百津町に定住。八百津町の山村エリア(八百津町久田見・福地・潮南地区)を中心に、山村地域に眠っている特色ある農林水産物などの地域資源の磨き上げや、地域の潜在能力を引き出し、地域の活性化を目指すことを目的とし、80%山のまちを元気にする協議会を立ち上げ、活動を続けています。

林業、農業体験などの体験型ワークショップの開催など、森林空間を活用した新産業創出への取組や、「小さな家」プロジェクトとして、木を活用した新たな商品開発等の森林整備につなげていく活動を、地元の林業家、建築の専門家、名古屋造形大学、岐阜大学などと協働で実践中です。

## 協力隊の活動事例



### 太古の昔から人々が住む島を受け継ぐために

愛知県西尾市の離島佐久島では、令和3年度から地域おこし協力隊を採用しています。

採用された隊員は、行政職員として市内の離島の佐久島に居住し、環境整備や島民のニーズに答え、島のためになることを日々考え活動しています。

また、佐久島で栽培するサツマイモを「サクのいも」としてブランド化し、島の土産物として定着させようと取り組んでいます。その活動の担い手として、耕作放棄地を開墾して栽培を広めることにも取り組んでいます。



#### 愛知県西尾市佐久島 地域おこし協力隊 池部 彰さん(活動期間:令和3年度~)

ワーキングホリデーを経験し、海外で農業経験もあったことから、佐久島でのサツマイモの栽培も違和感なく取り組むことができています。島に住みはじめてからは、いろいろな職業を経験し、特に、現在は、漁業関係の仕事として、毎年多くの中学生が体験する、西尾南部ベイエリア協議会の体験メニューの1つである「漁船体験」もお手伝いしています。

春には、アサリ漁が始まります。島では石の間を探って貝を掘ります。獲れたアサリは、身がプリプリでとても美味しいです。このような伝統漁を受け継いでいけたらと考えています。



### 渚泊でブルーツーリズムの推進

三重県紀北町では、移住定住、観光誘客を目的に平成28年度から地域おこし協力隊を採用しています。採用された隊員は、地域の魅力を発掘し、SNSやYouTube等を活用して紀北町の魅力を発信するほか、イベントへの参加も積極的に行っています。

紀北町海山地区渚泊推進協議会では、令和4年度から農泊の交付金を活用し、当該地域の強みである海、山、川のすべての体験を提供できる体制を構築し、地域が一丸となって観光を地域の産業として、確立することを目標に渚泊推進事業を実施しています。地域おこし協力隊には、外からの眼で地域の新たな良さを発見いただくこと、元キャビンアテンダントとしての語学力を活かし、インバウンド対応も含め、将来は定住して協議会の事務局として、またコーディネーターとしての活躍を期待しています。



#### 三重県紀北町 地域おこし協力隊 井上 幸子さん(活動期間:令和5年度~)

紀北町の海、山、川が大好きです。

三重県や海外等で仕事をしていましたが、「やっぱり三重に戻りたい!」と強く思い、以前、仕事でご縁のあった紀北町の地域おこし協力隊に応募しました。

一次産業者が渚泊の観光事業へ乗り出す過程で、強いコンテンツはありながらも、時間や人材が限られているため、手が回らない部分が多々あると思います。

キャビンアテンダント等のサービス業での経験を活かし、お客様対応やニーズの分析、情報発信などソフト面で町の方々のお役に立てればと考えています。海の魅力を作るブルーツーリズムがミッションなので、紀北町の歴史や漁村で行うツアー等による「渚泊×サービス」で、紀北町のファンを増やしていきたいです。

## 協力隊の活動事例



### 茶業や観光等を通じた地域活性化

京都府和束町では、800年という茶業の歴史が生み出す茶畑の美しい景観が将来も保全・活用されるよう、宇治茶及び和束茶のブランド力を高め、茶業のみならず地域資源を活かした観光地域づくりを推進し地域の魅力を高めていく活動に取り組んでいます。

和束町では、地域おこし協力隊を消費者・都市住民・訪日外国人への有用情報の積極的発信、既存の観光・交流活動の強化、地域資源を活かしたビジネスでの接遇活動を通じて地域活性化活動に従事または起業できる人材として育成していくことを目標としており、隊員には和束町農泊地域協議会において活動していただきました。



#### 京都府和束町 元地域おこし協力 鶴澤 由明さん(活動期間:平成31年度)

和束町と出会ったきっかけは、「土の文化を進めんもの」と想いを抱き、農業団体に勤務していた頃、世界的な茶業の特異点、宇治茶の主産地「和束町」と仕事で関わったことでした。同団体を退職後、町役場サイドではなく地域協議会の地域活性化人材として単年度でしたが和束茶の生産・販売等を学びながら、都市農村交流事業や茶業に直接関わる機会を得ることができ、現在は、和束町内の茶農家に就業しております。

今後は、和束茶の知名度の向上や国内外の交流活動の推進に努め、日本文化の集大成の茶文化及び歴史・日本の食・伝統行事等について温故知新を図りながら、和束町の魅力を少しでも高めることに貢献していきたいと考えています。



### 農泊事業で地域おこし

京都府伊根町では、「舟屋」と呼ばれる住民所有の舟小屋がランドマークであるため、住民に配慮した来訪者の受け入れを進める必要があります。町の規模や実情に沿った受け入れ体制の確保や仕組みを構築するため、平成30年に観光事業者や漁業関係者等と伊根浦地区農泊推進協議会を設立し、地域おこし協力隊員と一緒に事業を進めて参りました。

隊員は、協議会の調整役として、住民と実施したワークショップや、漁業体験の造成及びモニターツアーの実施、地産地消に関するセミナーの開催、食の魅力を発信するための動画制作等に携わっていただきました。任期満了後も伊根町に在住し、体験コンテンツの運営事業を立ち上げて活躍されています。



#### 京都府伊根町 元地域おこし協力隊 増田 一樹さん(活動期間:平成30年度～令和2年度)

平成30年7月に家族で伊根町に移住しました。もともと田舎暮らしやスロライフに魅力を感じていた訳ではありません。それではなぜ伊根町に惹かれたのか。それは圧倒的なフロンティア感を感じたからです。この町は全国に誇るべき資源を持ちつつ、伸びしろに溢れており、自分でも活躍できる場があるのではないかと考えました。

協力隊の3年間で起業するためキッチンカーの出店や電動スポーツ自転車を使ったツアー造成など徐々に活動の幅を広げていきました。退任後は引き続き「伊根浦地区農泊推進地区協議会」と連携しながら、自身の経営するサイクリングツアーや、周辺の事業者・自治体と連携する企画で忙しくしています。観るだけの観光地が長続きする事はなく、「つまらない観光地」として寂れていった地域の何と多い事でしょう。持続可能な観光のため、微力を尽くす所存です。

## 協力隊の活動事例



### 山暮らし体験・観光交流拠点施設となる古民家を整備

奈良県十津川村では、紀伊半島中央部の狭隘な山間地域で長く続いてきた十津川村の山暮らしを体験できるようなプログラムの造成や、新たな観光交流体験創出を目的に、地域おこし協力隊を採用しています。

採用された地域おこし協力隊は、「十津川村インバウンド受入協議会」のメンバーとして活動し、令和5年度は、山暮らし体験の滞在拠点となる古民家のリノベーションを実施。地域おこし協力隊が運営・管理を担っています。



奈良県十津川村 地域おこし協力隊 西村 晃代さん(活動期間:令和4年度~)

インバウンド観光の仕事をしていた前職の繋がりで十津川村と出会い、源泉かけ流し温泉、世界遺産熊野古道・小辺路、修験道の聖地・玉置神社、瀨峡など、まさに「最後の秘境」にふさわしく、魅力あふれる十津川村に魅かれて、地域おこし協力隊となりました。

1年目は、インバウンド観光受入促進、お土産品開発等を中心に活動しつつ、古民家整備に取り組みました。2年目となった今年度以降は、旅行業取得にも取り組み、「稼げる観光」の実践を目指しているところです。



### 元地域おこし協力隊が起業し古民家を活用した宿泊や農村レストランを展開

和歌山県串本町は、人口減少や少子高齢が進む中で地域外の人材を積極的に誘致し地域活性化に必要な施策の推進に資するとともに、定住及び定着を促進するために、地域おこし協力隊の受け入れを行っています。

隊員には、地域では気づかない魅力を更に引き出すことや、農泊の地域協議会や宿泊施設の立ち上げ・運営に関わっていただき、串本町の観光の盛り上げに貢献してもらいました。



和歌山県串本町 元地域おこし協力隊 博多 敏希さん

(活動期間:平成26年度~令和元年度)

串本町 地域おこし協力隊では、観光振興をミッションにしていました。地元にいると見落としてしまう魅力を再発見し情報発信から始めました。その後は、国際交流の隊員とイベント実施や、地元特産のさつまいもを栽培し、古民家活用などに取り組んできました。最終的には、古民家を活用したまちづくりとして、農泊に取り組む串本町古民家活用協議会やNIPPONIA 串本の立ち上げ運営に携わることになりました。

串本町に寄贈された築140年を超える古民家の活用から始まり、現在では周辺の古民家6棟の改修が実施され、宿泊施設、カフェ、レストランとして運営をしています。人が少なくなる場所に魅力を作り、まずは一度串本町に来てもらうということが、少しずつ規模が大きくなり、まちづくりの一助になれたのでは無いかと考えています。

## 協力隊の活動事例



### 協力隊として農泊事業に取り組んだ3年間

山口県萩市では「萩をおこす」取組として、地域外からの新たな視点での地域振興や魅力づくりに向け、平成27年度から地域おこし協力隊を受け入れています。「萩市ふるさとツーリズム推進協議会」は平成25年度から教育旅行の受け入れを行っており、隊員には協力隊の任期期間中のミッションとして当協議会の収益化を図ることでした。

隊員は、平成29年度から農泊の交付金を活用して教育旅行からインバウンドや個人旅行の受け入れに舵を切り、協議会の事務局の運営を担っていただいています。令和5年度は約390名のインバウンドの受入を行いました。



#### 山口県萩市 元地域おこし協力隊 宮崎 隆秀さん

(活動期間:平成27年度～平成30年度)

着任前は、旅行業界で働いており、お客様を旅行先へ送客していましたが、旅行先でのお客様の動向が気になるようになり、観光地のお客様をお迎えする立場となる観光業の仕事に興味を持つようになったのがきっかけで、タイミング良く萩市が協力隊の募集していたため応募しました。

現在は、協議会の事務局を民間に移管して継続して事務局運営を行いながら、日本酒サイクリングツアーや城下町ウォーキングツアーなど、新たな体験コンテンツの提供を行っている他、旅行業の登録を行い、関係人口創出ツアーや移住ツアー等にも携わっています。

今後の目標として、萩市に移住を希望する方々に対し、ホームステイ受入等による所得創出や直接雇用できるような事業を広げていきたいと考えております。



### 森を循環の中心に据えたコミュニティ作り

香川県高松市塩江町は県唯一の国民温泉保養地、観光地として戦前から長い伝統を持つ地域ですが、近年は産業の衰退と人口減少に直面している四国山地の北側の中山間地域です。公共交通があまり整備されていないことや、泉質は良いものの冷泉であることから燃料代の負荷が大きいことを理由に観光産業も衰退し、時代にあわせた町の産業の転換が求められています。そんな中、高松市はフリーミッション型の地域おこし協力隊を採用し、広葉樹中心で四季の移り変わりが美しい森の風景を利用したコンテンツ作りや、空き家を活用した活性化を行っています。2026年には、国の支援を受けて新しい道の駅が完成する予定で、そこにむけて組織改革や産業創出など抜本的なまちづくりを進めています。



#### 香川県高松市 元塩江町地域おこし協力隊 村山 淳さん

(活動期間:平成29年度～令和2年度)

福島県出身の私は東日本大震災と続く福島第一原子力発電所の事故のあと、水や食糧、エネルギーなどの基幹インフラが自立したまちづくりにチャレンジしようと塩江町にやってきました。任期中は、塩江町のことを知るために土地を歩きながら、伝統野菜の栽培支援や自伐型林業の事業者さんのお手伝いなどをしてきました。

任期後は一般社団法人トピカを立ち上げました。農泊推進事業の一環で、空き家を改修したゲストハウス作りや、高齢化と低価格化が理由で新規参入が難しい産直野菜のブランド化事業や、木質バイオマスによる熱供給事業を目指した検討と林業事業者・宿泊施設間の関係作りなどを行っています。法人としても、森の草木をつかったエッセンシャルオイル事業など、林業の新しい形を模索しています。



## 協力隊の活動事例



### 女性目線で農業者支援をテーマに活動しました

福岡県八女市では、平成25年度から地域おこし協力隊を任用し、移住・定住とあわせて地域活性化の取組に従事して貰っています。

福岡市 からUターンで戻られ地域おこし協力隊に着任されたのと同時期に農泊に取り組む母の膳推進協議会が設立されました。農泊交付金推進事業に取り組み始めたタイミングでしたので、外部協力者として農泊の取組支援に関わって貰い、収穫体験と料理づくりワークショップや福岡市内で開催した料理教室とマルシェイベントなどを企画して当日の運営をサポート頂きました。

現在も食品加工などの面で農作物の提供や、協議会と一緒に勉強会に参加するなど様々な面で連携しています。



八女市 元地域おこし協力隊 田中 未来さん(活動期間:令和元年度~令和3年度)

平成30年にUターンし、八女市の地域おこし協力隊になりました。女性農業者への支援が主な活動ミッションでもあり、地元の農家さんと共に活動しました。

「作ること」のプロの農家さんのお力を借りてイベント企画やマルシェでの販売等を行い、作り手とほしい人の繋ぎになることを目標に活動しました。

現在は家業の柑橘栽培の手伝いの傍ら、農泊の取組においても、郷土料理作りなどの体験コンテンツや食材等の提供を行っています。今度も地域の食や伝統を学びながら、地域を訪れる皆様に繋ぐ・伝える活動をしていきたいと思っています。



### 海女の発祥の地で、海女さん見習いとして地域おこし！

福岡県宗像市鐘崎集落は“海女”の発祥地と呼ばれています。

現役の海女さんが2名となっている状況が続くなか、平成29年に地域おこし協力隊として海女さんを全国公募し、2名の方を採用しました。農泊地域協議会の中核法人である「宗像鯨の会」では、現役の海女さんを構成メンバーとして、市役所所属の地域おこし協力隊の海女さん2名の方とも連携し、「海藻おしば体験」のインストラクター取得、壱岐の視察研修など実施しています。



福岡県宗像市 元地域おこし協力隊 本田 藍さん・魚住 ゆかりさん

(活動期間:平成30年度~令和3年度)

元理科の高校教師だった本田さんと、自動車メーカー工場勤務でカフェ店員の経験もある魚住さんは平成30年から海女見習いとして鐘崎集落で活動を行ってきました。任期中の主な活動は、海女としてワカメ、ウニ、アワビ、ナマコなどの採集技術の習得、地元レシピの収集活動や、高齢海女さんや関係者からの海女漁の知識や記憶などをインタビューし閲覧可能なデータを作成、「あまちゃん食堂」の運営、オンライン料理教室の開催、海女漁をPRするために水族館でのショーの実演、関西、関東含めイベントの開催、宗像観光ボランティアのお手伝い、有害生物の駆除調査や、環境団体と連携し、海の環境保全活動を啓発するための活動、地元小学校への環境学習などの実施、海藻おしば体験や稚魚捕獲観察会、ウミボタル観察会などの自然学習系ワークショップなどの開催を行いました。



### 自然に囲まれた島暮らし体験で世界と繋がる農泊

熊本県上天草市は天草諸島の玄関口で多くの島が集まる市です。市全体として自然や体験を売りにした観光や農業漁業などの事業に取り組む一方で、人口減少や高齢化の進行により、活動を担う人材が不足しています。このため市では、地域住民と一緒にあって活気あふれる地域づくりを担っていく人材として地域おこし協力隊を受け入れています。

維和島では、令和元年から地域おこし協力隊により、農泊に取り組む維和島振興協議会で地域資源を活用した農漁業体験や民泊・飲食スペースの整備など、滞在や交流の場を作ることで島外からの関係人口の創出を行っています。



#### 熊本県上天草市維和島 元地域おこし協力隊 星野 真理さん

(活動期間:令和元年度~令和5年度)

埼玉県出身で東京の大学を卒業し企業で働くことにやりがいを感じていましたが、休暇で母の故郷である維和島を訪れる頻度が年々増えていき、そのたびに地域の方たちとの交流や自然に癒され心地のよさを感じるようになりました。

自分は魅力を感じて足しげく通っているのに、地元の人たちが口をそろえて「ここには何もないから誰も来ない」と高齢化や人口減少を嘆いていることに気づきました。自分が持つ外からの目線でこの地域の魅力を再発見し、新たな交流を生み出すために、空き家を活用した宿泊施設や交流の場づくりなどに取り組んでいます。



## 協力隊の活動事例



### 地域を知り人とつながること、地域の資源と暮らしを繋いでいく

熊本県あさぎり町は、町外から新しいプロジェクトにチャレンジしたいという熱意を持つ人を地域おこし協力隊として任命しています。町では地域商社「あさぎり商社」に業務委託して、地域おこし協力隊をあさぎり商社の社員として採用を行いフレキシブルな活動していただいています。具体的には、あさぎり商社の業務である地域づくり協同組合の事務局、ふるさと納税の梱包作業などを行うとともに、地域の行事やイベントにも参加していただき、球磨地域や熊本市にも出向きフットワーク軽く学びやつながりをつくっています。また、あさぎり商社での業務とは別に、町内で活動する農泊の地域協議会「球磨川ふるさと食・農協議会」の活動にも関わっていただいています。



#### 熊本県あさぎり町 地域おこし協力隊 石川 智一さん(活動期間:令和4年度~)

協力隊として自分は何者なのか、何をしているのかを知ってもらう事が大事と考え、地域の中に入って行事やイベントなどに参加する中、農村民泊で活動されている方々と関わり「食・農・命」をテーマに様々な活動をされていることに「これだ!」と思い、学びながら参加をしています。

農泊イベントで色々な方と交流し繋がれたり、協力隊の交流会の場として協力してもらったりしています。

2年目に入り、地域のツアーやワーキングホリデーの宿泊場所として球磨川ふるさと食・農協議会と連携しながら、農泊を利用し体験してもらう事で「交流・関係人口」につながる活動やコミュニティの拠点づくりを目標にしています。



#### 熊本県あさぎり町 地域おこし協力隊 森田 孝政さん(活動期間:令和4年度~)

義理の兄弟で地域おこし協力隊としてあさぎり町で活動しています。(あさぎり兄弟)地域商社あさぎり商社に所属して、主な業務は、農業を主体とした複業組織「あさぎり地域づくり協同組合」の事務局を担当しています。

あさぎり町がある人吉球磨地域は、農泊をされている方が多く、私たち地域おこし協力隊もとてもお世話になっています。人吉球磨地域の協力隊で地元の食材を、農泊のお母さんたちと一緒に調理して、特産品の球磨焼酎で乾杯する、地域をまるごと味わう交流会も開催させていただきました。なかなかクローズアップされない地域の暮らしを、身をもって体験してこの地域の素晴らしさを、もっといろんな人に知ってもらうために、情報発信やふるさとワーキングホリデーなどの事業を通じて関係人口を増やしていきたいと考えています。



# 活動を始めてもらうまでの流れ

※一般的な流れを示したものです。

## ① 予算措置

- 議会の議決 ※対象経費に留意

## ② 実施要綱等の作成

- 地域の受入れニーズの把握
- 実施要綱、設置要綱の作成
- 募集要項(業務概要、待遇等を記載)の作成



## ③ 協力隊員の募集

- 団体のサイトや広報誌、一般社団法人  
移住・交流推進機構(JOIN)のサイト(☆)等で公募

☆地域おこし協力隊オフィシャルサイト(移住・交流推進機構(JOIN)ホームページ)

<http://www.iju-join.jp/chiikiokoshi/>

- 移住・交流情報ガーデンの活用

[https://www.iju-join.jp/join/iju\\_garden/index.html](https://www.iju-join.jp/join/iju_garden/index.html)

- 都市部での説明会の実施



## ④ 選考・面接

- 候補者の要望聞き取り ※地域要件に留意

## ⑤ 協力隊員の決定

## ⑥ 事前説明・準備

- 隊員への事業の詳細の説明
- 地域での役割、心構えなどを学ぶ研修の実施
- 現地説明会の実施(住民との顔合わせ)
- 隊員の年間活動計画の策定
- 隊員の生活環境のサポート



## ⑦ 委嘱手続き ～活動期間中

- 隊員の住民票を異動、委嘱状交付 ⇒ **活動開始!**
- サポート体制の構築(研修の実施、活動状況の把握等)
- 隊員の活動状況をホームページ、広報誌等でPR
- 地域内外との交流の機会の確保
- 任期終了後の隊員の定住・定着に向けた支援
- 特別交付税の基礎数値報告



## お問い合わせ先

### ◇ 本パンフレット 及び「農泊」の推進について

農林水産省 農村政策部 都市農村交流課 農泊推進室 TEL:03-3502-0030

[https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/nouhakuishin/nouhaku\\_top.html](https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/nouhakuishin/nouhaku_top.html)



### ◇ 地域おこし協力隊制度について

総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課 TEL:03-5253-5394

[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/02gyousei/02gyousei08\\_03000066.html](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/02gyousei/02gyousei08_03000066.html)

